

平成29年度第5回花巻市行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

平成29年7月27日（木） 午後3時30分～5時40分

2 開催場所

花巻市役所新館2階会議室

3 出席者

(1) 委員 4名

堀籠部会長、久保田武司委員、久保田廣美委員、板垣委員
(※高橋勉委員、高橋誠委員は欠席)

(2) 説明者（施策主管課） 1名

菊池スポーツ振興課長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 3名

秘書政策課：企画調整係瀬川上席主任、同係平石主任
財政課：経営財務係高橋主任

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「生涯スポーツの推進」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

板垣委員：施策評価シートの「5施策を構成する事務事業の検証」、「6施策の総合的な評価」において、早起きマラソン以外に課題はないのか。

菊池課長：主なものを抽出して記載している。細かな内容は記載していない。

板垣委員：早起きマラソン以外に課題はないのか。

菊池課長：ない。

板垣委員：早起きマラソンの参加者数について、実人数は何人か。

菊池課長：総会員数は2,682人。27年度は2,996人だったので、314人減少した。市の人口が減少していることが要因と考えている。

板垣委員：市の人口減少割合と比較するとどうか。

菊池課長：早起きマラソンの方が減少率は著しい。

板垣委員：市の人口減少以外に原因があるのではないか。

菊池課長：クラブ活動の朝練も影響していると考えられる。

久保田武司委員：地域スポーツ支援事業について、スポーツ少年団に対して補助金以外の支援はあるか。

菊池課長：スポーツ少年団本部への補助金の支援のみである。

堀籠部会長：地域スポーツ推進事業と地域スポーツ支援事業の2事業について、意図は同じで、重複している印象があるが、それぞれの役割分担はあるのか。

菊池課長：区分けの理由は分かりかねる。

堀籠部会長：スポーツ推進委員と体育協会の役割分担ではないかと思うのだが。

久保田廣美委員：市の主催事業は「推進事業」、外部委託は「支援事業」で分担している。

板垣委員：地域スポーツ推進事業と地域スポーツ支援事業の2本立てはスポーツ振興課で考えたものか。花巻市スポーツ推進計画では、市主催事業は「推進事業」、外部委託（体育協会、スポ少）は「支援事業」と分かりやすくまとめられているが、事務事業評価シートでは分かりにくくなっている。

堀籠部会長：花巻市スポーツ推進計画と今回の評価の関係はどうなっているのか。「推進事業」と「支援事業」を分けるのであれば明確な基準がほしいところである。

板垣委員：すべて一般財源の事業なのか。

菊池課長：一般財源である。

板垣委員：地域スポーツ支援事業の事務事業評価シートについて、「目的妥当性」と「公平性」のコメントがほとんど同じなのはなぜか。

菊池課長：誤記だと思われる。大変申し訳ない。

板垣委員：地域スポーツ推進事業と地域スポーツ支援事業の事務事業評価シートについて、総合評価もほとんど同じ内容である。それぞれ説明をしてほしい。特に、スポーツ基本法の制定が地域スポーツ推進につながる流れが分からない。

菊池課長：文章がまとまっておらず申し訳ない。

板垣委員：総合評価で何を言いたいのかが分からない。

堀籠部会長：スポーツ基本法と市の施策を連動させる必要があるため、そのような書き方になったのではないか。いずれにしろ、市独自の取組の総合評価についても記載すべきである。

久保田武司委員：施策評価シートの「現状と課題」について、ほとんど運動していない市民の割合が40.2%とあるが、市としてこの割合を上げる方法を考えているのか。

菊池課長：運動が苦手な人でも気軽にできるニュースポーツ（室内ペタンク、インディアカなど）をきっかにはしてほしいと考えている。

久保田武司委員：ニュースポーツの指導者は高齢ではないのか。

菊池課長：スポーツ推進委員は40人いるが、確かに高齢化している。指導力を上げるための講習会を開いている。

板垣委員：地域スポーツ推進事業の事務事業評価シートにおいて、「⑤スポーツ教室、イベント等の開催」の中の、コーディネーショントレーニング指導者研修の事業費が0千円だが、なぜ中止されたのか。予算はいくらだったのか。

菊池課長：後ほど回答する。

※質疑応答終了後、招聘予定の講師が亡くなったため、実施できなかった旨、予算は480千円である旨回答。

板垣委員：人件費について、地域スポーツ支援事業では3人で16,988千円、一人当たり5,660千円ほどになる。一方、地域スポーツ推進事業ではスポーツ指導員が1人で2,774千円である。なぜこれほどの差があるのか。

菊池課長：地域スポーツ推進事業の指導員は非常勤であるが、地域スポーツ支援事業では専任指導員がフルタイムで従事しているためである。

板垣委員：平成27年度のスポーツ少年団は75団体だが、平成28年度の団体数はいくつか。

菊池課長：平成28年度も75団体である。

板垣委員：スポーツ少年団の本部はどこか。

菊池課長：体育協会が事務局となっている。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シート】

◇①施策を構成する事務事業の評価・検証について

→ 直結度の評価はおおむね的確である。ただし、事務事業ごとの実績値を詳しく書いてもらいたい。例えば、スポーツ教室の参加者数だけでなく、特筆している早起きマラソンの参加者数も含めた人数を載せるなど。

市民ニーズや市の関与の必要性、投入コストのわりに成果が低い事業、施策への貢献度の低い事業が「なし」ならそれで構わないが、その理由も明記すべきである。

高齢者や障がい者等も含め、市民が「生涯にわたり気軽に」スポーツを行うようにするための取組が見えない。

◇②施策の成果指標及び達成状況の分析について

→ 早起きマラソンの参加者数の減少は、市の人口減少が影響していると分析しているが、他の理由もあるのではないか。少子化なども考えられないか。掘り下げ方が足りない。

◇③施策の総合的な評価について

→ 施策の目指す姿に近づくためには、早起きマラソンのみの記載では明らかに不十分である。「生涯にわたり気軽にスポーツを行っています」を実現させるためにはどうすれば良いかという視点で記載すべきである。また、総合型スポーツクラブについても検討してほしい。

◇④シート記載内容について

→ 第三者が読んで内容が分かる書き方をすべきである。理由や根拠が不明確な記載が多い。特に、事務事業評価シートにおいて、地域スポーツ支援事業の「目的妥当性、公平性、総合評価」の欄は誤記であったため、しっかり書いてもらいたい。